

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2024年 2月 15日

事業所名 こどもサポート教室「きりり」円座校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		指導員の人数と支援スペースの数を合わせている。常により良い環境維持ができるように心掛けている。現在、同時刻最大5支援が行えるスペースがある。	特性にあわせて環境の配慮を行う場合もある。
	②	職員の配置数は適切である	5	1	基本人員+加配加算+専門加算がとれている。それぞれの専門性が活かせる職員の配置を行っている。	今後人員配置が換わる時は利用者様にご迷惑をおかけしないように事前にお伝えすることや支援の質が下がらないような引継ぎの工夫を行う。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	広くスペースを取りホワイトボードでの区切りがあることで、1ブースの区切りとなっている。	出入り口の段差は無くしたい。転ばないように見守りと声掛けはその度に行っている。車いすが入ることは可能。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		毎日の掃除を朝当番制で必ず行っている。	保護者様の沢山の寄付により療育道具の他校舎の外観も綺麗になっている。お力を貸してくださっていることに改めて感謝と、これからもより良い療育が提供できるように還元できればと思う。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		職員が同じ目標に向かっていくための、可視化を図るツールの作成を行っている。	毎年アンケートを実施している。アンケートが無くともヒヤリハット等で改善が行える仕組みを作っている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		公式のブログにてアンケートの後悔を行っている。	アンケートに関しては近年の傾向により紙媒体からデジタル媒体へ移行し、いつでもど

					こでも回答しやすい仕組みを実施している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	ホームページに掲載の他、事業所内の壁に掲示。ファイルに保存し自由閲覧できるようにしている。	している。→内部監査以外に行政の監査にて業務改善すべきところがあれば真摯に受け止め改善する。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	行政用の内部監査項目シートの保管を行っている。	数年に1回の報酬改定のシート等、開示されるたび読んで保管し業務改善に活用し外部評価が円滑にできるように気を付けている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		任意の事例検討会にも積極的に参加している。	発達支援研究所の方に月1回程度研修して頂いて職員全員が必ず行い、議事録を回覧し、保管。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		年に一度アセスメントシートを活用。	アセスメントから生活から見える本児の特性の気づきが得られるので、毎年ご協力をして頂きどの点に注目してアセスメントを行っているかの確認を保護者様と行っている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	両面で一枚の社内アセスメントシートを使用している。	エコマップなど専門的な項目等分かりにくい所は利用者様に口頭で説明させて頂き、記入をお願いしている。今年度中に見本など作って記入がしやすい工夫も行いたい。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		ガイドラインをもとにした、サービス計画の中で個別支援計画を作成し行っている。変更があれば計画の修正を図り、利用者様に共有できる機会を作っている。	外部の連携に至っては特に慎重に行う事でお互いが地域の中で良好な関係で子どもたちを見守っていけるように心掛けている。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		支援計画に関して本児のなりたいた姿に着目して支援プ	当初の支援目的と課題達成度が変わっていると感じた時は細かく振り返りを行い、適宜個

				プログラムを組み、支援計画を脱さない形の支援を行う。	別支援計画を作りなおしていく。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		ミーティングで話し合い、個々の指導員での情報共有を行いプログラムの立案を行っている。	毎日のミーティングで話す他、必要な内容は職員に回覧にて共有されたかのチェックをしている。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	子どもたちの課題達成度に応じて必要な場合は保護者様と話し合いをして支援内容を変更している。	ミーティングにて固定化をするとしてもなぜそうするのか支援の意図や目的の確認、不自然な支援展開にならない工夫を行っている。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		兄弟や他児等、集団支援の必要性がある利用者様には提案している。	小集団イベントを実施するにしても、1つの目標に向かうだけではなく、意図的に利用者様に了承を得て場の共有をする等の特性に応じた小集団を行えるように気を付けている。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		個別支援計画→事業所内相談→記録日誌→毎回の振り返り→普段の朝礼、ミーティング、終礼→最初に戻るといように情報が切れる、伝わらないということがないように打ち合わせに工夫をしている。	支援開始前にはそれぞれの担当が利用者様の支援を行うスペースに行き、支援の意図と目的をスムーズに入室時から行えるように時間の配慮をしている。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		終礼にて緊急の情報については周知を行っている。	気づいた点はミーティングの他、指導員全員の相談等を通じて支援の深堀も行い、場合によっては事業所内相談や連携に繋がっている。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		毎回の支援記録をパソコンで打ち込んでいる。次回の支援に	支援記録については利用者様が読みやすいか等、利用者様の二一

				は間に合うように職員全体で心掛けている。抜けもないように利用者様に応じて記録ファイルをお渡ししている。	ズに応じて配慮を今後していく必要がある。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		6カ月に1回モニタリングを行い、必要に応じて計画の変更もする。	1時間と言う貴重な時間の中で話しやすい環境というのをまずは作れるように挨拶、気になるの有無等お聞きして自然なモニタリングに繋がられるように心がけている。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		管理者と担当指導員の他、児に関わる相談員さんや他事業所の方との担当者会議を行っている。	ケース会議には特に担当職員と話したのちに全体の指導員に出来事を周知している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1	必要に応じて行っている。(両者の許可を頂いて保護者様同士の繋がりを作る機会を設けている。)	発達支援研究所の巡回相談等も活用している。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	4	今年から増えて、現在病弱児が複数名通われている。医療的なケアについては保護者を通じて必要な連絡を行っている。	病弱児と示されている療育手帳を用意してもらっている。来所が安心してできるように対応の統一化は必要。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	4	関係機関連携として加算は算定できないが、場合に応じて相談員を通じて主治医にクライシスプランの協力をお願いしている。	連絡の体制は基本的に行政に確認したところこちらから協力の申請はできないが、医療の方が必要と思って事業所に協力を望まれた時は喜んでカンファレンス等参加させて頂いている。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	4	情報共有等、行っているが直接園に赴くことが少ないのが現状にある。	情報共有等、行っているが直接園に赴くことが少ないため、相互

					理解を図りながら関わっていきたい。	
②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	地域のサポートブックや、行政に提出する書類に関して間接的に情報共有を行っている。	必要に応じていつでも対応らできるような利用者様から移行支援が必要な場合は対応するようにしている。	
②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	必要に応じて見学したり、させて頂いたりしている。	数か月に一回、他の事業所に挨拶に行つて関係性の構築を図っている。	
②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	5	現在、行っていない。	イベント等で必要な場合は必要に応じて行える状態にしている。	
②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5	地域の子ども部会などは行っていない。	関係機関連携や利用者の方の活躍する場に赴いて事業所以外の様子を見に行かせて頂くことがある。	
③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		現在は行っていないが、必要に応じて行えるような姿勢にしていく。	毎日挨拶から相手の状態を確認しつつ「伝わる。話せる。」環境が作れるように心掛けている。	
③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	5	1	保護者様に相談を持ち掛けられた時に、児とともに支援に参加してご家庭でできる対応など話し合うことがある。	未就学のお子さんに対しては特に悩みを抱えている保護者様が多い印象なので、定期的に可能であれば最近の様子などお話を聞きしている。	
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時に利用者負担の仕組みなど説明している。	説明が不足していると感じた時は、電話等で対応させて頂いてる。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		ガイドラインをもとにした、サービス計画の中で個別支援計画を作成し行っている。	変更があれば計画の修正を図り、利用者様に共有できる機会を作っている。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	終業時間内での支援時や事業所内相談で行っている。	助言だけではなく、傾聴に徹する時もある。

	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	必要に応じて行っている。(両者の許可を頂いて保護者様同士の繋がりを作る機会を設けている。)	発達支援研究所の巡回相談等も活用している。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		契約時に説明、管理者が対応。指導員がその場で解決あるいはミーティングにて相談の上お伝えする。	引き続き相談等 対応した場合、記録を取らせて頂きその後の経過が分かるようにしている。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		教室掲示、一斉周知ラインや、月2回更新のブログで行っている。	ラインの通知数に活動制限がある為、特に必要な情報をお届けできるように努めたい。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	6		契約時に説明しており、施設内で指導員も気を付けている。	取り扱いが不十分または必要な場合は改善に向かえるように指導員と情話合い報の共有をしている。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1	フィードバックを毎回行っている。	出来ない時は事業所内相談や電話、記録用紙など用いて相互理解が行えるような仕組みを作っている。
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	現在は行っていないが、必要に応じて行えるような姿勢にしていく。	引き続き地域住民の皆様にご迷惑をおかけしないために、環境の整備や住民の方とお会いした時は元気な挨拶をしている。
	④②	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		マニュアルをまとめファイリングして設置している。	契約時に避難場所等重要な部分はお伝えしている。
	④③	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		防災係の避難訓練を月に1回、対象の児と指導員で行っている。	社内の掲示板やミーティングでどのようなことをしたのか全員が分かるようにして対応の統一化を行い、迅速に緊急の場合対応できるようにしている。
	④④	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		てんかんの場合の対応については発生時にまわりに障害物を置かない事。時間を図るこ	職員全体で対応ができるように周知している。

非常時等の対応

				と等発生時の経過と安否が取れるような状態にする。	
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	5	食事提供は現状行っていない。	食事提供が発生する場面では、衛生面に気を配って感染症リスク等ガイドラインを見た上で取り扱いを判断するようにする。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハットを作成し、全員回覧をして周知。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			社内で虐待防止の研修を行っている。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		契約時にどのような場合が具体的に説明をしている。	契約時に説明して、同意を得ている。また、身体拘束を行った場合は、書面に記載している。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2024年 2月 15日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」円座校  
割合：78%

保護者等数（児童数：9(姉弟含む) 回収数：7

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	7					
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	1				出入り口の段差は無くしたい。転ばないように見守りと声掛けはその度に行っている。車いすが入ることは可能。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	6	1				
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6	1				
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	6	1				
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	1	3	1		保育所等の福祉施設から必要性があれば積極的に活動ができる機会を検討している。
保護者への説	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	6		1			



明等	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	2	1	3	1		ご家庭でできることの提案、役割等一緒に検討できるように日常に還元できる支援の知識をお伝えできればと考えている。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	6			1		共通理解の不明確さは主に支援の振り返り等、事業所内相談にて発達の状況のアセスメントの照らし合わせができるように努めたい。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7					
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		1	3	3		一部の利用者様にご案内を差し上げているが、事業所以外のイベントにも積極的に保護者様が関わられるように周知を積極的に行っていく。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	6	1				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	3	2	2			一斉ラインの登録にご協力を頂き、ブログのURLにて結果の公表ができれば考えている。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	7					
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6		1			教室内に掲示しているが、説明不足を感じるため教室内の掲示を見やすくしたい。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2		4	1		防災係の避難訓練係がどんなことをしているのか未就学児に対してもで

								きるアピールの検討をしていく。
満足度	②	子どもは通所を楽しみにしているか	6	1				
	③	事業所の支援に満足しているか	7					これからも満足が頂けるような支援をしていくために、アンケートの結果を見て業務改善に迎えるように善処していく。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。